

ぶんごわ～るど

Bungo World

『ぶんごわ～るど』は、大分県在住の青年海外協力隊経験者組織である大分県青年海外協力協会の会報誌です。かつて豊後の国と呼ばれていた大分県から世界へ雄飛した若者達の活躍ぶりを毎回紹介しますので、是非ご一読ください。

『ブラジルで感じる日本』

平成29年度1次隊・
ブラジル・日系日本語学校教師

宗 里 奈（宇佐市出身）



大分県の皆さん、こんにちは。

私は現在、日本との時差-12時間（サマータイム中は-11時間）の国、ブラジルで日本語教師として活動しています。任地はサンパウロ州にあるスザノ市というところです。スザノ市は日系の人たちが多く、道や店の看板に日本人名が使われていたり、フェイラと呼ばれる青空市場では日本語を耳にしたりします。そんな日系社会にどっぷりと浸かっている私の活動を少し紹介します。

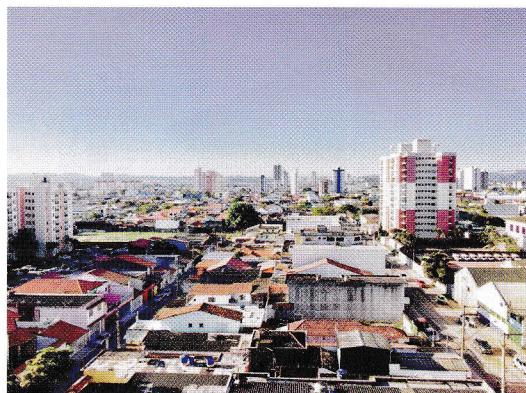
活動内容は、文化協会内にある日本語学校で月曜日から土曜日まで現地教師と共に日本語や日本文化を教えることです。生徒数は40名程で、以前はほ

とんどが日系人だったようですが、ここ数年は非日系人の割合も増えてきています。生徒の年齢は6歳から60代までと幅広く、初級から上級までとレベルも様々。「アニメが好きだから」「日本人の顔をしているのに日本語が話せないから」「日本の大学で勉強したいから」「NHKのニュースがわかるようになりたいから」など、それぞれが理由を持って日本語を勉強しています。毎日の授業はもちろん、学校行事が盛りだくさんなので、アイディア探しに追われながらも、とにかく日本語を話して話して、話しまくる日々です。

今ではいろいろと楽しむ余裕も出てきましたが、



折り紙を教える生徒たち



家のベランダから見えるスザノの町

着任当初は悩むこともありました。そしてそんなときは、よく家のベランダから空を見上げて頭の中を



授業の様子

整理する時間を作ったりしていました。110年前、日本からここ、ブラジルに渡って来た人たちも同じように空を見上げては、ふるさとの日本に想いを馳せ、解決策を見つけていったに違いないと思いながら…。

任期も残り半年。目の前にいる人たちに日本から来た私だからできることをしていくだけです。それは自分の価値観を押し付けることではなく、現地の人たちの考えに少しだけ色を加えるというか、共に考えるきっかけを作るというか、日本語を通じてお互いの可能性を広げていけたらと思います。

『ラオスの合気道』

平成29年度3次隊・シニアボランティア
ラオス・合気道

三浦 洋明（大分市出身）

ラオスは気候的には雨季と乾季があり今2月は乾季にあたり雨はほとんど降らず毎日暑い日が続いています。ラオスのビエンチャンに着任して1年が経ちましたがラオス料理の味付けが合わず食事に苦労していますが元気にやっています。私は2009年に日本の無償資金協力により建てられた武道センタで合気道の指導を行っています。一般クラスの稽古日は火、木、土、日の週4回夕方1時間から1時間半稽古を行っており、土、日の午前中は子供クラスで60人から70人程が稽古に来ています。

一般クラスも高校生が多く若手中心の元気な稽古でこれから先が楽しみな状況になっています。昨年の3月には合気会本部巡回セミナーが行われ16歳から18歳の4名が初段に合格しました。今年も3月に合気会本部巡回セミナーが予定されており、同

じく10代の生徒3名が初段を受験予定です。これからは若手指導者の育成にも重点をおいて指導にあたっていきたいと考えているところです。

2018年9月
22日、23日に
ベトナムのハノ



武道センタ

イで第6回AFSEAセミナー（The 6th Aikido Fellowships Southeast Asia Seminar）がありラオス合気道クラブからも8名が参加しました。2年に一回開催されており参加国はタイ、マレーシア、ラオス、カンボジア、インド、中国、香港、シンガポール、台湾、日本、ベトナムの11か国が集まつた非常に大きな大会でした。このセミナーは東南アジア諸国の高段者の方の高度な技の指導を受けることでメンバーの技術レベル向上につながり、合気道の技の統一性を図ると共に新しい技の研究の場として非常に重要且つ有意義な大会でした。11月にはサワンナケート大学で日本語教育で活動されている青年海外協力隊の隊員から大学の日本祭りに合気道演武並びに体験講習会を依頼されて行きました。大変好評だったので今後サワンナケートでも合気道が普及していくことを願っているところです。



稽古風景

進路相談カウンセラー着任 『就任のご挨拶』



JICA九州 青年海外協力隊 相談役 有里 泰徳

みなさま、こんにちは。この度、青年海外協力隊相談役として、大分県・鹿児島県・宮崎県を担当いたします有里と申します。

JICAボランティア事業、とりわけ青年海外協力隊事業の理解促進並びに帰国ボランティアの進路開拓及び社会還元活動に係る相談・支援活動が主たる業務になります。

これまで、大分県内では早くから地方創生・地域活性化の人材として、協力隊経験者の地元定着に向けての取り組みがなされてきました。これも前任の日高健夫カウンセラーの尽力と共に大分県内地方自治体をはじめとして民間企業・各関係団体の方々のご理解ご協力の賜と考えております。

さて、大分県が実施した「一村一品運動」は地域振興策としてこれまで大きな役割を果たしてきました。

た。これは、単なる商品開発ではなく地域開発を目的とした徹底した人づくりが評価されているものと思います。このコンセプトは、開発途上国における「一村一品」キャンペーンにも繋がっています。そして、開発途上国の経済・社会発展のため、直接・間接に関わって活動するJICAボランティア事業を改めて推進していく必要性を感じています。また、内外ともに厳しい情勢のなか、その経験者である協力隊OBOGの能力や技術等を今こそ発揮すべき時でしょう。

その昔、『人づくり・国づくり・心のふれあい』という、スローガンがありました。改めて原点に立ち返ることが必要な時代なのかもしれません。新たな価値ある変化を創りだすために『Make a Difference!』

大分県青年海外協力協会会員の皆様、関係者の皆様並びに協力隊事業に关心を寄せる大分県のみなさまよろしくお願ひいたします。



新企画。「あの人は、今？」

bag

No.1

『着物から、What goes around comes around』

投稿者：渡邊 了孔（わたなべ りょうこ）

派遣国：モンゴル

職種：視聴覚教育

隊次：平成21年度3次隊

みなさん、『月刊 岩ときもの』の定期購読はおすみでしょうか～？編集長の渡辺了孔です。ご存知ない方のためにご説明しますと、『月刊 岩ときもの』とは、着物を着て、岩場に行き、写真を撮って、雑誌の表紙風に加工し、インターネット上に投稿するという活動です。紙媒体は存在しないため、幻のエア雑誌とも呼ばれています。青年海外協力隊としてモンゴルに派遣されていた時に、日本の伝統的な着

物文化を知らなさすぎることを思い知られ、帰国後、着物の着付けを学び、着物の普及のためにこの活動を始めました。

軽い気持ちで創刊したのですが、深く考えさせられることが多く驚いています。痛感したのが、物の価値が大きく変わってきたということ。高価なイメージの着物ですが、今はリサイクルショップなどで数百円から手に入れられます。はじめは「安く」購入

サスティナブルきもの同好会

リメイク日傘と石垣ときもの

縫い糸が劣化した着物を解いて、日傘にしてみました。一つは、2017年4月号のお召の着物（写真左）。もう一つは、2018年6月号のアンティーグな柄の着物（写真右）。着物を解くと、長方形の長い布が取れるので、いろんなものに作り替えることができます。着物はサスティナブル（持続可能な）民族衣装だわ～と、いつも思います



着物から作った日傘



月刊 岩ときもの

今月の岩

志賀島の二見岩

福岡県福岡市東区志賀島
(志賀島花崗閃緑岩)

着物で隠れた名所を巡る

読者イチオシの岩場を訪ねる

着物は世界の宝物♥

モンゴルからの夢を叶える

~着物に憧れ続けて20年~



6
June
2018
Rock and KIMONO

(参考資料) 日傘の元になった着物

した着物を着て、『月刊 岩ときもの』でPRして楽しんでいたのですが、数十万円もしたであろう着物が、二束三文の値で取引されていると思うと、せつなくなりました。いやいや、着物の普及活動をここであきらめてはいけない！上質な生地で作られた着物たちに日の光をあてるべく、リメイクして日傘を作って売ってみることにしました。さて、作った日傘を販売するには、値段をいくらにすればよいのか？これを本職とするならば、日本での人件費を考えると、販売価格が2万円以上となります。高くて売れないんじゃないかしら(汗) 途上国の労働問題や、フェアトレードについて、出前講座で子供たちに話していた自分が、自身の生活の糧として販売しようとする商品の価格設定で葛藤することになろうとは、思ってもみませんでした。

ファストファッション、激安ショップ、100均・・・「安さ」とは？私たちの生活はどこで支えられているのか？価値というものを今一度考える時代に来ているのではないか？と、思い付きで始めた『月刊

岩ときもの』で、私自身が深く考えさせられ、日本のこと良くならずに暮らしてきたツケが回ってきた、まさに、“What goes around comes around”な世界を満喫している今日この頃です。



(参考資料) 着物から作った日傘

行事報告

2018年

9月	大分県ボランティア家族連絡会	於：ホルトホール
10月	大分県ワールドフェスタ	
	JICAボランティア秋募集説明会	
11月	パネル展示	
12月	平成30年度 3次隊 表敬訪問・壮行会	

※毎月第2水曜日、協力隊ナビ iichiko総合文化センター（1階）

帰国隊員

小翠 香織 ブータン 医療機器（大分市）

羽田野直子 モザンビーク 青少年活動（豊後大野市）



小翠香織さん



羽田野直子さん

本年度の派遣隊員

（左から）吉岡昂正 パラグアイ 小学校教師（大分市）

工藤夏美 ネパール 青少年活動（豊後高田市）

椎原 渉 ルワンダ コミュニティ開発（大分市）



12月18日 県庁に表敬訪問

青年海外協力隊とは？

青年海外協力隊は、国際協力機構（JICA）が実施する国の事業で、昭和40年の発足以来すでに88か国へ約40,000名の日本人青年が派遣されました。現在も1,700余名の隊員が世界70ヶ国にて、現地の人々と同じ言葉を話し一緒に生活しながら、開発途上国の国造りのために協力しています。

協力隊員の募集は、年2回春（5月）と秋（10月）に全国各地で説明会があった後、選考試験が行われます。詳しくは右記のほか、国際協力機構九州国際センター（TEL093-671-6311）、大分県企画振興部国際交流室（TEL097-506-2129）、またはJICAデスク大分国際協力推進員 佐保好信（TEL097-533-4021）までお問い合わせください。

大分県青年海外協力協会 会報

『ぶんごわ～るど』

平成31年2月発行 第65号

発行：大分県青年海外協力協会

URL:<http://www.ooca.org/>

皆様のご意見・ご感想等、
お便りをお待ちしております。

編集後記

平成も残すところ、あとわずかとなりました。平成の元号発表時、皆さんは、どこで何をしていましたか？私は、大学生でした。あれから、30年。うわー、私の年齢がバレてしましましたね。今年は、いろんな意味で変化のある一年になりそうですね。大分トリニータもJ1に昇格し、今秋には、ラグビーのワールドカップが大分で開催されます。私自身、スポーツ観戦も忙しくなりそうです。

今年も、皆さんにとって素敵な一年になりますように。

平成8年度2次隊 カンボジア・幼稚園教諭 石和真紀子